

市町村における発掘調査の概要  
平成 28 年度（2016 年度）

## 平成28年度市町村教育委員会による発掘調査一覧

(平成29年3月10日現在)

番号	管内	市町	遺跡名	調査理由	調査機関	面積	備考
1	石狩	札幌市	K441遺跡	住宅	札幌市教育委員会	532.16	
2	石狩	札幌市	M554遺跡	学校	札幌市教育委員会	1650	
3	石狩	千歳市	キウス13遺跡	詳細分布	千歳市教育委員会	247	国庫補助事業
4	石狩	千歳市	メボシ川2遺跡	宅地造成	千歳市教育委員会	119	
5	石狩	千歳市	ウサクマイB遺跡	水道	千歳市教育委員会	197.804	
6	渡島	函館市	史跡 垣ノ島遺跡	史跡整備	函館市教育委員会	135	法第125条
7	渡島	函館市	日吉町A遺跡	道路	函館市教育委員会	2650	
8	渡島	函館市	石川3遺跡	区画整理	函館市教育委員会	3496	
9	渡島	函館市	電電公社合宿舎遺跡	道路	函館市教育委員会	1200	
10	渡島	函館市	豊崎Q遺跡	道路	函館市教育委員会	579	
11	渡島	松前町	史跡 松前氏城跡福山城跡	史跡整備	松前町教育委員会	200	法第125条
12	渡島	森町	史跡 鷲ノ木遺跡	史跡整備	森町教育委員会	423	法第125条及び99条
13	空知	深川市	文光町1遺跡	その他建物	深川市教育委員会	72	
14	宗谷	利尻富士町	沼浦海水浴場遺跡	学術研究	利尻富士町教育委員会	12.5	
15	オホーツク	美幌町	駒生10遺跡	農業関連	美幌町教育委員会	149	
16	オホーツク	斜里町	チャシコツ岬上遺跡	詳細分布	斜里町教育委員会	37	国庫補助事業
17	胆振	室蘭市	絵鞆貝塚	学術研究	室蘭市教育委員会	35	
18	胆振	苫小牧市	勇振4遺跡	その他開発	苫小牧市教育委員会	1,017	国庫補助事業
19	胆振	苫小牧市	柏原地区	詳細分布	苫小牧市教育委員会	2,329	国庫補助事業
20	胆振	伊達市	若生貝塚	学術研究	伊達市教育委員会	16.25	
21	胆振	伊達市	カムイタプコプ下遺跡	学術研究	伊達市教育委員会	60	
22	胆振	安平町	瑞穂3遺跡	土砂採取	安平町教育委員会	500	
23	胆振	厚真町	上幌内1遺跡	ダム	厚真町教育委員会	138	
24	胆振	厚真町	富里1遺跡	水道	厚真町教育委員会	168	
25	胆振	厚真町	シヨロマ1遺跡	ダム	厚真町教育委員会	5094	
26	胆振	厚真町	上幌内2遺跡	ダム	厚真町教育委員会	50	
27	胆振	厚真町	豊沢9遺跡	詳細分布	厚真町教育委員会	4	
28	胆振	むかわ町	東雲1遺跡	詳細分布	むかわ町教育委員会	16.2	
29	日高	様似町	冬島遺跡	詳細分布	様似町教育委員会	16	
30	日高	様似町	山中遺跡	詳細分布	様似町教育委員会	176	国庫補助事業

調査面積合計 21318.91 m<sup>2</sup>

## 平成28年度（公財）北海道埋蔵文化財センターによる発掘調査一覧

（平成29年3月10日現在）

番号	管内	市町村	遺跡名	調査理由	面積（㎡）
1	石狩	千歳市	根志越5遺跡	河川	2,120
2	渡島	知内町	湯の里2遺跡	鉄道（新幹線）	84
3	渡島	木古内町	札苺7遺跡	道路（高規格道）	1,809
4	渡島	木古内町	釜谷10遺跡	道路（高規格道）	1,430
5	渡島	木古内町	幸連4遺跡	道路（高規格道）	2,137
6	渡島	木古内町	泉沢6遺跡	道路（高規格道）	1,411
7	渡島	木古内町	幸連5遺跡	道路（高規格道）	61
8	上川	下川町	上名寄8遺跡	河川	800
9	胆振	厚真町	富里1遺跡	農業関連	1,551
10	胆振	厚真町	オニキシベ3遺跡	ダム	6,380
11	胆振	厚真町	厚幌2遺跡	農業関連	1,083
12	胆振	厚真町	幌内7遺跡	農業関連	189
13	胆振	厚真町	オコッコ1遺跡	河川	260
14	胆振	厚真町	豊沢5遺跡	農業関連	729
15	胆振	厚真町	上幌内4遺跡	ダム	300
16	胆振	厚真町	上幌内5遺跡	ダム	9,550
17	十勝	新得町	屈足17遺跡	道路（農道）	900
18	根室	根室市	別当賀一番沢川遺跡	道路	2,000
19	根室	根室市	幌茂尻1遺跡	道路（根室道路）	2,200
20	根室	根室市	温根沼3遺跡	道路（根室道路）	2,610

調査面積合計 37,604 ㎡

※詳しくは、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターへお問い合わせください。

<http://www.domaibun.or.jp/>

## 平成28年度大学等による発掘調査一覧

(平成29年3月10日現在)

番号	管内	市町村	遺跡名	調査理由	面積 (㎡)	備考
1	石狩	札幌市	K39遺跡	開発事業(その他建物・水道)	658.00	北海道大学埋蔵文化財調査センター
2	石狩	札幌市	K39遺跡	開発事業(その他建物・電気・水道)	1,702.00	北海道大学埋蔵文化財調査センター
3	石狩	札幌市	K39遺跡	開発事業(その他建物・ガス・水道)	634.00	北海道大学埋蔵文化財調査センター
4	石狩	札幌市	K39遺跡	学術研究	121.00	北海道大学埋蔵文化財調査センター
5	後志	ニセコ町	西富遺跡	学術研究	13.00	高倉純
6	後志	倶知安町	峠下遺跡	学術研究	34.00	札幌国際大学(坂梨夏代)
7	宗谷	礼文町	浜中2遺跡	学術研究	43.50	北海道大学アイヌ・先住民研究センター
8	オホーツク	北見市	大島2(TK-11)遺跡	学術研究	411.00	東京大学大学院人文社会系研究科(熊木俊朗)
9	オホーツク	北見市	吉井沢遺跡	学術研究	29.00	夏木大吾
10	オホーツク	置戸町	勝山2遺跡	学術研究	24.00	鶴丸俊明
11	オホーツク	置戸町	置戸山2遺跡	学術研究	5.00	大塚宣明
12	オホーツク	遠軽町	タチカルシナイ遺跡隣接地	学術研究	31.86	夏木大吾
13	胆振	豊浦町	礼文華遺跡	学術研究	43.00	小杉康
14	十勝	上士幌町	嶋木遺跡	学術研究	27.50	首都大学東京都市教養学部(出穂雅実)
15	十勝	大樹町	浜大樹2遺跡	学術研究	52.75	深澤百合子

調査面積合計 3,829.61 ㎡

※詳しくは、各大学等へお問い合わせください。  
遺跡の位置などは、「北の遺跡案内」をご覧ください。

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kitanoisekiannai.htm>

# 市町村による発掘調査の概要（平成28年度）

ご覧になりたい遺跡をクリックするとページに移動します。

## 石狩管内

[札幌市 K441遺跡](#)

[札幌市 M554遺跡](#)

[千歳市 キウス13遺跡・](#)

[市内遺跡発掘調査事業試掘調査地点](#)

[千歳市 メボシ川2遺跡](#)

[千歳市 ウサクマイB遺跡](#)

## 渡島管内

[函館市 史跡 垣ノ島遺跡](#)

[函館市 日吉町A遺跡](#)

[函館市 石川3遺跡](#)

[函館市 電電公社合宿舎遺跡](#)

[函館市 豊崎Q遺跡](#)

[森町 史跡 鷺ノ木遺跡](#)

## 空知管内

[深川市 文光町1遺跡](#)

## 宗谷管内

[利尻富士町 沼浦海水浴場遺跡](#)

## オホーツク管内

[美幌町 駒生10遺跡](#)

[斜里町 チャシコツ岬上遺跡](#)

## 胆振管内

[室蘭市 絵鞆貝塚](#)

[苫小牧市 勇振4遺跡](#)

[苫小牧市 柏原地区](#)

[伊達市 若生貝塚](#)

[伊達市 カムイタプコプ下遺跡](#)

[厚真町 上幌内1遺跡](#)

[厚真町 富里1遺跡](#)

[厚真町 ショロマ1遺跡](#)

[厚真町 上幌内2遺跡](#)

[厚真町 豊沢9遺跡](#)

[むかわ町 東雲1遺跡](#)

## 日高管内

[様似町 冬島遺跡](#)

[様似町 山中遺跡](#)

このホームページについてのお問い合わせや北海道の遺跡をもっと知りたい方は・・・

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課

住所：札幌市中央区北3条西7丁目

電話：011-231-4111 内線35-626

北の遺跡案内

<http://www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kitanoisekiannai.htm>

## 札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)

調査理由：開発事業(住宅)

調査地：札幌市北区北32条西9丁目154番95・138

調査期間：平成28年7月1日から7月22日

調査面積：532㎡

## 調査の概要

K 4 4 1 遺跡は、札幌市北部の沖積平野に立地する遺跡で、札幌市営地下鉄南北線北34条駅から西へ約600mあたりに位置しています。現在の遺跡付近の標高は約8～9mです。

明治時代の地図や近年の発掘調査の結果等から、遺跡周辺にはかつて河川が流れており、その河川沿いには擦文時代の遺跡が存在することが知られています。今回の発掘調査においても、擦文時代の2枚の遺物包含層が確認されました。

上位の遺物包含層からは、擦文土器が出土しましたが、遺構は見つかりませんでした。下位の遺物包含層からは、遺構として、炉跡8基や焼土粒集中5カ所が見つかり、擦文土器のほか、須恵器、紡錘車、羽口、礫石器などが出土しました。

また、上位の遺物包含層に属するか不明ですが、下位の遺物包含層を切って構築された竪穴住居跡1軒と柱穴4基が見つかりました。竪穴住居跡の平面形は隅丸方形で、付属するカマドや柱穴は確認されませんでした。4基の柱穴は、等間隔に配列している状況で見つかりましたので、掘立柱建物跡である可能性があります。

なお、発掘調査の成果については、平成28年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。



竪穴住居跡調査状況

この遺跡についてのお問い合わせは・・・

### 札幌市埋蔵文化財センター

住所：札幌市中央区南22条西13丁目

電話：011-512-5430

開館時間：8:45～17:15

閉館日：祝日・振替休日・年末年始。ただし、5月3～5日、11月3日は開館

## 札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)

調査理由：開発事業(小学校改築)

調査地：札幌市南区澄川5条4丁目1-1

調査期間：平成28年8月1日から9月9日

調査面積：1,650㎡

## 調査の概要

M554遺跡は、札幌市営地下鉄南北線澄川駅から南東へ約600m、札幌市立澄川小学校の敷地内に位置しています。地形的には、札幌市の南東部に広がる台地・丘陵地のうち、西岡台地の西縁にあたり、豊平川扇状地平岸面へと下ってゆく緩斜面上に立地しています。現在の標高は約67mです。

今回の発掘調査では、おとし穴4基と土坑2基が検出されました。おとし穴は、すべて平面形が長楕円形のもので、底面に逆茂木の痕跡などはありませんでした。覆土は、腐植に富んだ黒色の土と、壁面から崩れた黄褐色の土が交互に堆積していました。土坑は、用途不明ですが、1基からは被熱痕跡のある礫が2点出土しました。

土器や石器などの遺物は出土しておらず、遺構の構築時期は不明ですが、これまでの調査事例を参考にすると、縄文時代中期～後期に位置づけられる可能性があります。

なお、発掘調査の成果については、平成28年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。



おとし穴調査状況

この遺跡についてのお問い合わせは・・・

### 札幌市埋蔵文化財センター

住所：札幌市中央区南22条西13丁目

電話：011-512-5430

開館時間：8:45～17:15

閉館日：祝日・振替休日・年末年始。ただし、5月3～5日、11月3日は開館

## 千歳市教育委員会

[一覧へ戻る](#)

調査理由：詳細分布

調査地：千歳市中央410-2、410-5

調査期間：平成28年7月19日から11月4日

調査面積：247㎡

## 調査の概要

国史跡キウス周堤墓群は、JR千歳駅から北東に8kmほど離れた、馬追丘陵西麓の丘陵緩斜面、標高16～20mに立地しています。千歳市は、史跡の保護に万全を期すため、史跡周辺地区の埋蔵文化財詳細分布調査を平成25年度から実施しています。平成27～29年度の調査は、7つの周堤墓が群集する史跡指定地の北側の区域を対象にしています。

28年度は、チャシ川の北、国道337号の東側に所在するキウス6号周堤墓史跡指定地から東へ115m～270m離れた区域と、チャシ川兩岸の、南北2つの史跡指定地に挟まれた区域、約31,000㎡を対象に、20m間隔を基本として配置した平面標準規模1m×3mの試掘坑70箇所で行った発掘調査を実施しました。調査の対象となる縄文時代～江戸時代の地層（層厚約50～60cm）は、56箇所の試掘坑で、江戸時代に樽前山から噴出降下した火山灰（層厚約30cm）に覆われ、良好な状態で遺されていました。

埋蔵文化財は、先の東側の区域を含めて30箇所の試掘坑で確認されました。これによって、遺跡が国道337号の東約350mの地点まで広がっていることが分かりました。昨年度と今年度に発見された縄文時代後期の竪穴住居跡、墓壇、

「盛土遺構」は、29年度に継続して発掘する予定です。遺物は、土器が約1,500点、石器が約400点出土しました。これらは、旧石器時代、縄文時代、続縄文時代、擦文文化期のものですが、縄文時代後期の遺物が、総数の約7割を占めています。



「盛土遺構」の発掘調査の様子

この遺跡についてのお問い合わせや千歳市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

## 千歳市教育委員会埋蔵文化財センター

住所：千歳市長都42-1

電話・FAX：0123-24-4210

メールアドレス：maibun@city.chitose.hokkaido.jp

開館時間：9:00～17:00

閉館日：土曜日、月の第2日曜日を除く日曜日、祝日、年末年始



## 千歳市教育委員会

調査理由：開発事業（住宅）

調査地：千歳市豊里5丁目10番14

調査期間：平成28年11月7日から11月16日

調査面積：119㎡

## 調査の概要

メボシ川2遺跡はJR千歳駅から東北東に約1.8kmほど離れた、メムシ川左岸の古砂丘を基盤とした南北480m、東西200m、標高10～14mの独立丘陵上に位置しています。

本遺跡は、昭和55年～58年度の根志越地区土地区画整理事業にともない、昭和56年に区画街路部の一部900㎡を対象とする発掘調査が実施されました（第1次調査：千歳市教育委員会1983『メボシ川2遺跡における考古学的調査』）。平成23年には、住宅建築にともなう宅地一区画160㎡の発掘調査（第2次調査）、平成27年には、同じく住宅建築にともなう宅地二区画204㎡の発掘調査（第3次調査）を実施しました。これらの調査によって、本遺跡は後期旧石器時代から中近世にいたる複合遺跡であることが確認されています。今回の調査は第4次調査となります。

今回の調査では、第Ⅱ黒色土層から土坑1基、焼土6ヶ所が検出されました。土坑は縄文時代中期、焼土は縄文時代早期と中期のものと考えられます。出土遺物は総計749点で、このうち593点の土器は縄文時代早期から中期にわたりますが、早期（東釧路Ⅳ式）と中期（北筒式）が主体となっています。石器は剥片石器16点、礫石器24点、剥片67点、礫49点が出土しました。

縄文時代早期の焼土1基を取り巻くように同じ時期の土器が集中して出土しており、この時代に生活した人々の活動の場であったことを示していると考えられます。

報告書は平成29年2月下旬刊行の予定です。



調査区近景



縄文時代中期の土坑

この遺跡についてのお問い合わせや千歳市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

## 千歳市教育委員会埋蔵文化財センター

住所：千歳市長都42-1

電話・FAX：0123-24-4210

メールアドレス：maibun@city.chitose.hokkaido.jp

開館時間：9:00～17:00

閉館日：土曜日、月の第2日曜日を除く日曜日、祝日、年末年始

## 千歳市教育委員会

調査理由：開発事業（水道）

調査地：千歳市蘭越地区

調査期間：平成28年6月5日から7月29日

調査面積：197.804㎡

## 調査の概要

ウサクマイB遺跡は、千歳市街のJR千歳駅の西へ約7km、支笏湖通(道道16号)を市街地より支笏湖方向へ向かい、烏柵舞橋の手前を「さけますふ化場」方向に右折し約500m、千歳川左岸に位置しています。

ウサクマイB遺跡の千歳市教育委員会発掘調査は本調査で第3次調査となり、昭和47年10月の予備調査と昭和48年7月8月に第1次調査、昭和54年3月に第2次調査が刊行されています。本調査は、第2次調査の北側横を調査しましたが、痕跡を見つけることができませんでした。



アイヌ文化期の土壇墓

平成28年度の調査は、アイヌ文化期の土壇墓1基、擦文文化期の竪穴住居跡1基、土坑2基、炉跡6基、集石1箇所、晩期の炉跡1基、後期の炉跡1基検出しました。遺物は縄文時代前期・中期・後期・晩期・続縄文期・擦文文化期・アイヌ文化期を検出しました。アイヌ文化期の土壇墓は長軸202cm、頭端幅80cm、足端幅75cm、深さ約50cmです。墓壇内の壁周囲には木槨を廻した細い溝痕跡を検出しました。墓壇内から、左足横に刀1本、左頭部横に鎌1本、右頭部横に刀子1本、漆器椀1個、針7本のうち2本は有機物の痕があり布に包まれていたと思われます。また、胸の上に盆らしき四角の痕跡がありました。墓壇外には、墓標穴の位置に鉄鍋弦1本、直径43cmの範囲に漆膜を検出しました。



アイヌ文化期の土壇墓出土遺物

この遺跡についてのお問い合わせや千歳市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

## 千歳市教育委員会埋蔵文化財センター

住所：千歳市長都42-1

電話・FAX：0123-24-4210

メールアドレス：maibun@city.chitose.hokkaido.jp

開館時間：9:00～17:00

閉館日：土曜日、月の第2日曜日を除く日曜日、祝日、年末年始

## 函館市教育委員会

[一覧へ戻る](#)

調査理由：史跡内容確認

調査地：函館市臼尻町417-1・2・4・5, 418, 419-1・2, 431, 432, 433

調査期間：平成28年6月1日から6月30日

調査面積：135㎡

## 調査の概要

今年度は史跡垣ノ島遺跡の主要な遺構である盛り土遺構について、これまでの成果を補足し、整備事業における旧地形復元に向けた設計に資するデータを取得するため、10箇所を発掘調査を行いました。

調査の結果、過去の調査と同様に、盛り土は表土および火山灰層に覆われた状況で概ね良好に残っており、いずれの調査区においてもⅢ層(クロボク土)直下から盛り土の上面を検出したことで、より確実に盛り土遺構の規模や形状を捉えることができました。

また旧沢地形に向かう北西側および垣ノ島川に向かう南東側の調査区では、調査区全面において盛り土を検出したことで、川に挟まれた北西-南東方向においては台地縁辺部にいたる広範囲に盛り土遺構がつくられており、その全体規模は、長さ190m、幅120mを超える非常に大きなものであることがわかりました。

加えてKo-aパミス(昭和4年降下)が厚く堆積する地点や表土直下に盛り土が見られる地点な



盛り土上面検出状況

ど、縄文時代以降の様相を確認することができ、旧地形の復元や後世の土地利用状況など整備に向け多くの情報を得ることができました。

出土した遺物は、土器では縄文前期末の円筒下層d2式、中期の円筒上層a~c式、榎林式、大安在B式、レンガ台式、後期の天祐寺式等がみられます。石器では、石鏃、石匙、スクレイパー、石斧、擦石、敲石、砥石等が出土しています。その他、青竜刀形石器や有孔土器片板がみられます。

平成29年度からは、これまでの調査成果をもとに、遺構の保存を前提とし、早期の一般公開を目指し、盛り土遺構の旧地形復元や環境整備を中心とした保存整備事業に本格的に着手します。

発掘調査報告書は平成28年度中に刊行の予定です。

盛り土遺構  
全体図

この遺跡についてのお問い合わせは・・・

函館市教育委員会生涯学習部文化財課世界遺産担当

住所：函館市東雲町4番13号

電話：0138-21-3563

<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

## 函館市教育委員会

[一覧へ戻る](#)

調査理由：開発事業（道路）

調査地：函館市日吉町4丁目64-2, 80, 123, 127-1・3・4

調査期間：平成28年5月9日から平成28年9月30日

調査面積：2,650㎡

## 調査の概要

函館新外環状道路（空港道路）建設に伴う記録保存を目的とした発掘調査を昨年度に引き続き実施しました。遺跡は横津岳を頂とする亀田半島山岳部の南麓にあたり、松倉川の支流である湯の沢川の右岸に位置します。函館平野に向かって緩やかに傾斜する地形上に位置し、調査地点の標高は50m前後です。

日吉町A遺跡では、昭和45年に開発行為に伴った発掘調査が行われています。縄文時代後期のストーンサークルと称された配石遺構や墓壇、竪穴住居跡や遺物が確認されたことから、祭祀的な遺跡として知られるようになりました。昨年度は湯の沢川の崖面に近い地点を調査し、後期の隅丸長方形の土壇墓4基を同一地点で確認しました。土壇墓には配石を伴うものや副葬品として碧玉製の垂飾が埋納されたものもありました。

今年度の調査地点は2か所あり、ストーンサークル地点と前年調査区との地点（1区）と湯の沢川に合流する枝沢の北端付近（2区）を調査しました。遺構と遺物の大半は1区で確認されまし

た。遺構は後期のものと考えられ、竪穴住居跡1軒、竪穴遺構2基、土坑10基、剥片集中5か所、盛土2か所などを確認しました。また、焼土の可能性のある橙色土の堆積か所が多数あります。竪穴住居跡は沢地形の周辺にあり、長径約4mの楕円形を呈し、出入口施設、炉跡、柱穴を伴うものでした。沢地形の周辺では竪穴遺構も確認されています。焼土の可能性のある橙色土は1区の全域に広がっていることが判明しました。橙色土は前年調査区の境界付近まで分布し、墓壇付近にはないことが判っています。ほか、頁岩の剥片集中を5か所確認しています。

遺物は総数約8,300点出土しており、これら多くはストーンサークル地点に近い1区南側から出土しています。殆どが後期のものであり、土器のうち特徴的なものとして、扁平な形の注口土器や赤彩のダルマ状をした注口土器などがあります。石器類は剥片石器が主体であり、石鏃やナイフ・スクレイパー類が多く出土しています。礫石器類は少数であり、内訳として石斧及び擦切残片、敲石、擦石、砥石、石皿、台石などがあります。

報告書は平成28年度に刊行の予定です。



竪穴住居跡の全景



注口土器

この遺跡についてのお問い合わせや函館市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

## 函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当（日吉町A遺跡について）

住所：函館市東雲町4-13

電話：0138-21-3472

<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

## 函館市縄文文化交流センター（函館市内の遺跡について）

住所：函館市臼尻町551-1

電話：0138-25-2030

開館時間：（4月～10月）9：00～17：00、（11月～3月）9：00～16：30

閉館日：月曜日・毎月最終金曜日・年末年始など

## 函館市教育委員会

調査理由：開発事業（区画整理）

調査地：函館市石川町167

調査期間：平成28年4月1日から5月31日

調査面積：3,496㎡

## 調査の概要

石川3遺跡は函館平野に面した標高20～50mの低位段丘面に所在しています。遺跡は、東隣して流れる石川の形成した緩斜面上にあり、函館平野をはさんで南に津軽海峡、東に函館山、北の横津山塊に臨んでいます。遺跡の所在する半径400mほどの範囲には、石川1遺跡、石川2遺跡、石川3遺跡、桔梗2遺跡、桔梗3遺跡があり、また、西側1kmには北海道でも最大級の集落跡といわれるサイベ沢遺跡が所在しています。

これらの遺跡からは、いずれも縄文時代前期から中期の集落が発見されたり、または遺物が出土していることから、円筒土器上層式・下層式を使用した人々が、場所をかえながらこの地域に住み続けていた事を伺い知ることが出来ます。また、桔梗2遺跡、石川1遺跡からは縄文土器が使用される以前の旧石器時代の遺物が発見されていることから、函館市内では最も古くから人が住んでいた場所であったことも知られています。

函館市の北西部にあたる石川稜北地区の土地区画整理事業に関連して、試掘調査により埋蔵文化財の調査を必要とする範囲で発掘調査が行われました。平成27年度には函館市教育委員会が主体となり、本年度調査区の北側947㎡で特定



調査区全景

非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団によって発掘調査が行われており、本年はそれに続くものです。

本年度の調査では、昨年度と同様、耕作土直下が地山となり、遺物包含層はほぼ喪失した状況でしたが、調査区東側にあたる石川の形成した緩斜面の低い部分で若干の包含層を確認することができました。

表土除去後には広範囲に北側の昨年度調査区より連続する落とし穴と、調査区南東端の緩斜面に竪穴住居が集中して発見されました。検出遺構は、竪穴住居跡7軒、土坑14基、落とし穴44基の他、明治末～昭和初期に造られた室（ムロ）が4基検出されています。遺物は住居跡を中心に復元個体を含む871点、剥片石器・剥片191点、礫石器・礫類156点が出土しました。遺跡の主体となる時期は、竪穴住居から出土した遺物により、縄文時代中期から中期末葉（見晴町式から榎林式期）に相当するものと思われます。なお、発見された竪穴住居跡は、長軸7mの大型のもの、と3m前後の小型のものに分けられますが、大型の竪穴からは円筒上層式期最終末の土器が出土し、小型の竪穴から榎林式期の遺物がそれぞれ床面、床面直上から出土しています。本遺跡と隣接する石川1遺跡、桔梗2遺跡では直前の集落遺跡が発見されていることから、周辺遺跡との関連が伺われます。

発掘調査報告書は平成28年度中に刊行の予定です。



小型土器の副葬された土坑

この遺跡についてのお問い合わせは・・・

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当（石川3遺跡について）

住所：函館市東雲町4-13

電話：0138-21-3472

<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

## 函館市教育委員会

調査理由：開発事業（道路）

調査地：函館市臼尻町353番地他

調査期間：平成28年5月9日から平成28年9月9日

調査面積：1,200㎡

## 調査の概要

遺跡は、臼尻町の弁天岬のある標高約39.0～40.0mの海岸段丘上にあります。縄文前期以降の遺物包含層（Ⅲ層）と駒ヶ岳火山灰（Ⅳ層）の下にある早期の遺物包含層（Ⅴ層）を発掘調査しました。

Ⅲ層で確認した遺構は、竪穴住居跡1軒、土坑3基、柱穴状土坑5基です。竪穴住居跡は、調査区西側の標高40.0mに立地しています。竪穴は1/2ほどが今回の調査区外に広がっているため、全体像は不明ですが、方形の石囲いで長軸の北東側の一辺に大型礫1個を配置している炉が確認されました。また、炉から60cmほど離れた北東側にも、大型礫1個があり長軸上に縦に配置されています。昨年度の調査においても1対の大型礫が炉の長軸上に設置されており、炉を構成する礫以外の大型礫のあり方が興味深いです。構築時期は、住居の形態や床面出土の土器から縄文後期前半のものと判断されます。土坑は3基確認され、平面形は楕円形のものが1基、円形のものが2基です。柱穴状土坑5基の深さは0.4m～0.7mで、規則的な配列は見られ

ませんでした。

遺物は、縄文後期前半を主体とする土器が約1,700点、石鏃、石槍、スクレイパー、石斧、敲石、擦石などの石器類が約1,100点出土しています。

Ⅴ層で確認した遺構は、竪穴住居跡が1軒、土坑53基、焼土8か所、剥片集中3か所です。竪穴住居跡は、調査区西端中央の縁に約1/3が検出されましたが、全体像は2/3が調査区外に広がっているため不明です。検出した壁面には小穴が巡っています。構築時期は床面直上で出土した土器から、縄文早期後半のものと判断されます。土坑は、調査区中央の南側に集中して見つかりました。平面形は円形、楕円形、長楕円形、隅丸方形の4形態が確認されています。

遺物は土器約3,100点出土しており、縄文早期後半の撚糸文系が主体です。石器は、石鏃、つまみ付ナイフ、スクレイパーなどの剥片石器、敲石、擦石、石錘などの礫石器類が約1,400点出土しています。

報告書は平成28年度に刊行の予定です。

Ⅲ層調査  
竪穴住居跡Ⅴ層調査  
竪穴住居跡

この遺跡についてのお問い合わせや函館市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

## 函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当（電電公社合宿舎遺跡について）

住所：函館市東雲町4-13

電話：0138-21-3472

<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

## 函館市縄文文化交流センター（函館市内の遺跡について）

住所：函館市臼尻町551-1

電話：0138-25-2030

開館時間：（4月～10月）9：00～17：00、（11月～3月）9：00～16：30

閉館日：月曜日・毎月最終金曜日・年末年始など

## 函館市教育委員会

調査理由：開発事業（道路）

調査地：函館市大船町204-1番地他

調査期間：平成28年9月12日から平成28年11月10日

調査面積：579㎡

## 調査の概要

遺跡は大舟川右岸の標高約29.0mの海岸段丘上にあります。縄文前期以降の遺物包含層（Ⅲ層）と駒ヶ岳火山灰（Ⅳ層）の下にある早期の遺物包含層（Ⅴ層）を発掘調査しました。

Ⅲ層で確認した遺構は、竪穴住居跡2軒、竪穴遺構1基、土坑10基、焼土8か所です。竪穴住居跡のうち1軒は、約2/3の検出でしたが、平面形は楕円形と思われます。付属施設は石囲炉が検出されています。また、住居長軸北側の壁際が皿状に掘り込まれており、先端ピットと思われます。構築時期は、住居の形態から縄文中期後半のものと考えられます。もう1軒は平面形が円形で、北東側に出入口構造に伴う溝状のピットが確認されています。炉は確認できませんでした。構築時期は、住居の形態や床面から出土した土器から縄文後期後半のもの判断されます。その他、調査区東側の大舟川に面して竪穴が確認されました。北側の壁際及び床が風倒木で攪乱され礫が露出しており、住居としての付属施設が確認できなかったことから竪穴遺構としました。なお、平面形は後期後半の竪穴住居跡に典型的な住居内側に張出が見られません。土坑の平面形は、円形、楕円形の2形態が

あります。焼土は土層断面の確認状況から廃棄されたものと思われます。

遺物は調査区全体に分布しており、縄文後期後半を主体とする土器や石鏃、スクレイパー、石斧、敲石、擦石などの石器類合わせて約2,500点が出土しています。

Ⅴ層で確認された遺構は、土坑1基です。土坑は、40～50cm大の礫が土坑中央部に向かって落ち込んでいる状況で確認されました。平面形はやや不整の楕円形で、規模が2.5×2.0mと大型です。

包含層を掘り下げた結果、大舟川に面した調査区中央の一部を除いて、約80cmから5・6cmほどの大小の垂角礫が面的に拡がっていました。なお、現況の小段丘状の地形は、市営住宅（旧町営住宅）建設時における造成工事によるものと考えられ、本来は道道側から大舟川へ向かって緩やかに傾斜する地形と想像されます。調査区はその傾斜の先端部にあたり、垂角礫の面的な拡がりには上位からの土石流の跡と考えられます。

遺物は早期後半の土器やつまみ付ナイフ、凹石など約60点が出土しています。

報告書は平成29年度に刊行の予定です



Ⅲ層調査 竪穴住居跡(PD-1)



Ⅲ層調査 竪穴住居跡(PD-2)

この遺跡についてのお問い合わせは・・・

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当

住所：函館市東雲町4-13

電話：0138-21-3472

<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

## 森町教育委員会

調査理由：内容確認調査

調査地：茅部郡森町字鷺ノ木町503-6他

調査期間：平成28年6月14日から11月15日

調査面積：423㎡

## 調査の概要

鷺ノ木遺跡は森町市街地の西方約4km、内浦湾の海岸線から直線距離で約1kmの内陸に位置します。桂川支流の上毛無沢川と下毛無沢川に挟まれた標高約70mの舌状台地である高位段丘面と標高約37～50m前後の緩斜面である低位段丘面、高位段丘面と低位段丘面を繋ぐ比高差約15mの斜面に立地しています。高位段丘面からは縄文時代後期の環状列石、竪穴墓域等が発見されています。低位段丘面からは、土坑と縄文時代後期の遺物が大量に出土しています。今年度は昨年を引き続き、高位段丘面で確認されている窪地と竪穴墓域2号の確認調査を行いました。

窪地は環状列石の北へ約50mの台地端部に位置しています。直径約80m、比高差2～4mの大きさをもっており、窪地中央には高さ3mほどの小丘が存在しています。今年是小丘頂点と、窪地最低部の調査を行い、遺構や遺物の有無を確認しました。両地点からは土器、石鏃、石皿、北海道式石冠等が出土しました。このことから窪地は当時の人々の利用区域であったことが確認さ



窪地最低部



竪穴墓域2号

この遺跡についてのお問い合わせや森町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

### 森町教育委員会 (鷺ノ木遺跡について)

電話：01374-2-2186

### 森町遺跡発掘調査事務所 (森町の遺跡について)

電話：01374-3-2240

開館時間：9時～16時まで

閉館日：土日祝日・年末年始



## 深川市教育委員会

調査理由：開発事業(その他建物)

調査地：深川市文光町13番地

調査期間：平成28年5月21日

調査面積：72㎡

## 調査の概要

文光町1遺跡は、市街地の西側にある深川中学校敷地内に位置しています。この遺跡は、平成27年3月から4月にかけて実施された深川中学校の改築工事ともなう試掘調査で発見されました。試掘調査では、焼土と出土遺物3点(黒曜石製の削器1点、被熱した黒曜石の剥片1点、石斧の小破片1点)が見つかったため、本調査では、この遺跡と隣接しており改築工事で遺跡が破壊されてしまう恐れがある箇所を発掘調査をおこないました。この調査の結果、遺構は検出

されませんでした。遺物包含層が調査区北角から南角へ向かっておちこんでおり、もともとは谷状の地形であったことがわかりました。また、調査区東側の包含層からは、縄文土器の口縁部とみられる土器片が1点出土しました。これらのことから、この遺跡は恒常的に生活が営まれたのではなく、短期的に利用された痕跡が残されている遺跡と考えられます。発掘調査報告書は、2017年3月に発行予定です。



調査区遠景(南東から)



出土した土器片

この遺跡についてのお問い合わせや深川市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

## 深川市教育委員会 (文光町1遺跡 について)

電話：0164-26-2343

メールアドレス：gakuspo@city.fukagawa.lg.jp

## 深川市郷土資料館 (深川市内の遺跡について)

住所：深川市西町3-15生きがい文化センター内

電話：0164-23-3883

<http://www.fukanavi.com/jspcbvaywaet/>

開館時間：9:00～17:00

閉館日：月曜日・年末年始

## 利尻富士町教育委員会

調査理由：学術研究

調査地：利尻富士町鬼脇字沼浦133-1・146番地

調査期間：平成28年5月11日から5月20日

調査面積：12.5㎡

## 調査の概要

沼浦海水浴場遺跡は、利尻島の南東部に所在する沼浦地区に位置しており、標高4～5mほどの砂浜海岸に立地しています。本地区は、アイヌ語で「ヲタマリ（砂浜のある入江）」とよばれ、周辺には沼浦湿原やオタマリ沼などの景勝地が広がっています。

本遺跡は、明治時代においてすでに遺物採集の記録があり、その後昭和時代に入ってから小規模な試掘調査が数度にわたり行なわれ、平成14年には町教委で詳細分布調査を実施しました。各調査では、続縄文時代やオホーツク文化期を中心とした土器や石器のほか動物骨などが多数出土しています。

平成28年の調査では、A～C区の3箇所それぞれテストピットを設定し、遺跡のひろがりを確認しました。とくに14年調査地点に程近いB区では、幾重にも堆積した魚骨層とオホーツク文化期（貼付文期）の墓壇がみつきり、より浜側のA区では、その最下層からオホーツク文化期より古い時代と考えられる住居跡が発見されました。

今回の調査で得られた墓壇や住居跡は、過去に実施されてきた本遺跡の調査のなかでも初めての発見でした。次年度予定されている継続調査によって、その成り立ちなどよりくわしい内容が明らかにされるものと思われます。



遺跡全体



魚骨層と墓壇（B区）

この遺跡についてのお問い合わせや利尻富士町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

### 利尻富士町教育委員会

電話：0163-82-1370

### りっぷ館

住所：利尻富士町鴛泊字栄町

電話：0163-82-1721

開館時間：5月1日～10月31日(9:00～17:00)

## 美幌町教育委員会

[一覧へ戻る](#)

調査理由：開発事業（農業関連）

調査地：美幌町字駒生21-3、22-1・2、23-1・2・4、120-7、126-1、127

調査期間：平成28年4月22日から5月10日

調査面積：149㎡

## 調査の概要

駒生10遺跡は美幌町市街地より南東に約3km、駒生川右岸に張り出すような尾根状地形上に立地しています。駒生川との比高差は約10m、遺跡の標高は60m程となっています。駒生川を挟み、対岸の緩斜面上には駒生9遺跡が立地しています。駒生10遺跡の調査は、道営農地整備事業美幌豊栄地区の区画整理工事に伴い、遺跡の範囲を確認する目的で尾根状の地形及びその周辺で試掘調査を実施しました。

試掘調査の結果、遺構は確認されませんでした。尾根上の試掘ピット10か所から28点の遺物が出土しました。所在調査においても、表面

踏査によって土器1点、削器2点、剥片25点が採集されており、出土範囲は尾根上に限られていたことから、駒生10遺跡の範囲は尾根上から広がらないものと考えられます。なお、遺跡は試掘調査の結果から過去の耕作や削平作業によって既に破壊された状況であることが明らかになりました。

遺跡の時期は、調査区の隣接地から北筒式土器の破片が出土していることから縄文時代中期末葉～後期初頭と考えられます。

報告書は平成29年3月に刊行の予定です。



遺跡位置図

この地図は、国土地理院発行の2万5千分1地形図北見福住(斜里14-1)を使用した。



調査風景

この遺跡についてのお問い合わせや美幌町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

## 美幌博物館

住所：美幌町字美禽253-4

電話：0152-72-2160

## 斜里町教育委員会

[一覧へ戻る](#)

調査理由：学術研究

調査地：斜里郡斜里町ウトロ西地先1377林班

調査期間：平成28年8月30日から10月8日

調査面積：37㎡

## 調査の概要

チャシコツ岬上遺跡は北緯44° 3' 53"、東経144° 58' 55" 付近、斜里町ウトロ市街地より斜里町市街地方向へ約2km南西に進んだオホーツク海に突き出た海岸段丘上に立地しています。この段丘面の平坦地上には31軒の竪穴住居跡が確認され、オホーツク文化後期～終末期を主とした集落跡と考えられています。

本年度は平成26年度から調査を継続している竪穴住居跡1軒の発掘調査に加え、竪穴住居跡の上層に形成された廃棄場、および未調査の高位平坦面でのトレンチ調査を実施しました。

調査の結果、竪穴住居跡は平面六角形を成すオホーツク文化（貼付文）期のものが明らかとなりました。竪穴住居跡の内部からはヒグマなどの動物骨を集積した骨塚（祭壇）が3ヶ所から見つかっており、屋内の動物儀礼場跡と考えられます。また、焼失住居であるため一部の建築材が炭化した状態で残されていました。



チャシコツ岬上遺跡全景

高位の平坦面に設定したトレンチからは、オホーツク文化（貼付文）期の配石遺構が検出され、礫の間からはオホーツク土器や石鏃、骨角器など多くの遺物が動物骨とともに出土しました。また、廃棄場はオホーツク文化（貼付文）期の所産であり、主にタラ科・カレイ科・サケ科・ニシン科などの魚骨によって構成されますが、鳥類や海獣類、テン・キツネ・クマなどの陸獣類も少量確認されました。特筆すべきは、この廃棄層中から皇朝十二銭の1つである神功開宝（765年初鑄）が発見されたことです。これにより、オホーツク文化の集団が道央部の擦文文化集団を経由して律令国家と交流を行っていた可能性が示されました。

出土遺物件数は合計2,988件で、主体はオホーツク土器（貼付文）ですが、擦文土器や縄文中期の破片もわずかに見つかっています。石器では、黒曜石製の石鏃や搔器等のほか、レキ石器の敲石、すり石などが多く出土しています。

4ヶ年の調査成果をまとめた総括報告書は平成29年度に刊行予定です。



廃棄場出土の神功開宝

この遺跡についてのお問い合わせや斜里町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

## 斜里町立知床博物館

電話：0152-23-1256

F A X：0152-23-1257

<http://shirtoko-museum.mydns.jp>

## 室蘭市教育委員会、伊達市噴火湾文化研究所

調査理由：学術研究

調査地：室蘭市祝津町2丁目112-1

調査期間：平成28年7月28日から8月3日

調査面積：35㎡

## 調査の概要

絵鞆貝塚は、絵鞆半島の先端部付近、湾内を望む標高5mほどの地点に位置している貝塚遺跡です。

道内でも大規模な貝塚遺跡として、明治22年頃から知られていましたが、周辺の宅地化などにより遺跡の現状が不明になっていました。このため室蘭市教育委員会では昨年試掘調査を行い、貝塚や包含層などが現存していることを確認、縄文後期初めの貝塚や人骨を1体検出しました。

これらの成果を受け、平成28年には、噴火湾沿岸の縄文時代の環境変遷を明らかにすることを目的とし調査研究を行っている伊達市噴火湾文化研究所と、室蘭市教育委員会が共同で発掘調査を実施することとしました。

規模こそ小さなものでしたが、道内外から考古学を専攻する学生・大学院生も参加し、貝塚の良好な地点を調査しました。貝塚から採取したサンプルからは、オオノガイのほか、イルカの頭蓋骨や魚骨が多く確認され、その一方で、エゾシカなどの陸生ほ乳類は極めて少ないという特徴が把握されています。

オオノガイの存在からは、縄文後期の当時、内湾の干潟が存在したことが指摘できます。また、サザエの蓋など北海道には生息しない貝種も、少数ですが出土しており、暖流の勢いが強い時期にあたっていたことも明らかになりました。

噴火湾沿岸地域は、暖流と寒流の変化の影響

を強く受ける地域であり、貝種の変遷はこれら微妙な変化を捉えられる可能性を示しています。こうした出土遺物や動物遺存体、それらの分析に基づく調査成果については、平成29年3月に調査報告書をまとめる予定で現在整理作業を進めています。

なお、このたびの調査は、JSPS科研費26284125「北海道噴火湾沿岸の縄文文化の基礎的研究（基盤研究（B）代表者：青野友哉）」によるものです。

イルカの頭蓋骨  
検出状況

貝塚調査状況

この遺跡についてのお問い合わせや室蘭市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

## 室蘭市教育委員会（絵鞆貝塚について）

電話：0143-22-5094

## 室蘭市民俗資料館（室蘭市内の遺跡について）

住所：室蘭市陣屋町2丁目4番25号

電話：0143-59-4922

開館時間：10:00～16:00、閉館日：月曜日・年末年始、1月20日～3月19日

## 苫小牧市埋蔵文化財調査センター

[一覧へ戻る](#)

調査理由：開発事業（その他開発）

調査期間：平成28年9月6日から9月30日

調査地：苫小牧市字植苗620-1

調査面積：1,017㎡（1.5×6mの試掘溝113本）

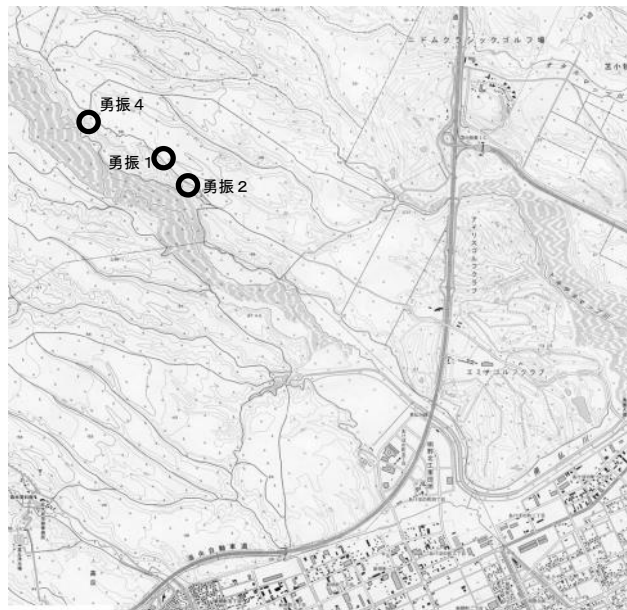
## 調査の概要

植苗地区でのレジャー施設建設に伴う試掘調査により、勇振4遺跡を新たに発見しました。縄文時代早期と晩期の土器10点、礫1点が出土しています。あわせて、舗装道路の工事に伴い周知の遺跡である勇振1・2遺跡を試掘調査し、勇振1遺跡では礫4点が出土しました。勇振2遺跡では遺物や遺構が確認されなかったことから、面積を変更します。3地点とも勇払川左岸の標高50mを越す丘陵平坦部に位置してい

ます。時期は勇振4遺跡が縄文時代早期・晩期で、ほかは縄文時代です。



勇振4遺跡出土遺物



勇振1・2・4遺跡位置図

この地図は、国土地理院発行の2万5千分1地形図ウトナイ湖（札幌8-2）及び胆振高丘（札幌8-4）を合成したものである。

## 苫小牧市埋蔵文化財調査センター

[一覧へ戻る](#)

調査理由：詳細分布

調査期間：平成28年9月6日～9月30日

調査地：苫小牧市字柏原118（A）、

調査面積：2,329㎡（1.5×6mの試掘溝261本）

14-2（B）、127-1・137-1ほか（C）

## 調査の概要

苫東開発区域内の柏原地区の3か所で試掘調査を実施しましたが、新たに遺跡は確認されませんでした。

この遺跡についてのお問い合わせや苫小牧市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

## 苫小牧市埋蔵文化財調査センター

住所：苫小牧市末広町3丁目9番7号

電話：0144-35-2552

閉館日：月曜日・月曜日が祝日の場合翌日、年末年始

## 伊達市教育委員会

調査理由：学術研究

調査地：伊達市東有珠町5-1, 7

調査期間：平成28年4月18日から7月25日

調査面積：16.25㎡

## 調査の概要

若生貝塚は、噴火湾東岸の伊達市東有珠町に位置する縄文前期の大規模貝塚を有する集落遺跡です。若生貝塚では、昭和25・27年に峰山巖率いる伊達高校郷土研究部による発掘調査が行われ、4カ所の貝塚（A～D 地点）が発見されました。平成26年度から今年度まで、噴火湾沿岸地域の環境変遷とそれに伴う人間活動の特質を明らかにすることを目的とした科学研究費助成事業「北海道噴火湾沿岸の縄文文化の基礎的研究」（基盤研究(B)代表者：青野友哉）の一環として伊達市噴火湾文化研究所による発掘調査がおこなわれました。

今年度は、A地点の周辺を20mごとに発掘する分布調査を実施しました。これにより、新たに2カ所の貝塚が発見されたほか、土坑墓1基、竪穴住居跡1軒が検出されました。また、遺跡の大部分は1663年に降下した有珠b火山灰にパックされて非常に保存状態が良いことがわかりました。

新たに発見された貝塚の範囲は、北側の一つが東西約15m×南北約40m、南側の一つが東西約18mで調査区外に続いています。遺構を保存するため貝層の上面で掘削を止めており正確な時期は不明ですが、縄文前期の土器やすり石が出土していることから、A地点とほぼ同じ時期の貝塚であると考えられます。南側の貝塚の周辺から

見つかった土坑墓は、人骨は出土しませんでした。楕円形の平面形を呈する掘りこみで、覆土の上部からは石皿と倒立した円筒下層c式土器が出土しました。また、竪穴住居址には柱穴と炉が伴い、覆土から円筒下層d式土器が出土しました。墓址・竪穴住居址ともに縄文前期後半のもので、いずれも若生貝塚で初めての検出例です。

今年度の調査によって、当時の海岸線から1km以上離れた標高54mの台地上という特異な立地の集落について議論できる材料が得られました。今後は、噴火湾沿岸の他の縄文遺跡も含めて縄文文化の特質を究明していきたいと考えています。



土坑墓

この遺跡についてのお問い合わせや伊達市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

## 伊達市教育委員会生涯学習課文化財係（若生遺跡について）

電話：0142-23-3331

## 史跡北黄金貝塚公園（伊達市内の遺跡について）

住所：伊達市北黄金町75

電話：0142-24-2122

<http://www.city.date.hokkaido.jp/funkawan/detail/00003312.html>

開館時間 9:00～17:00（4月1日～11月30日まで期間内無休）

## 伊達市教育委員会

[一覧へ戻る](#)

調査理由：学術研究

調査地：伊達市向有珠町203-3

調査期間：平成28年10月13日から10月22日

調査面積：60㎡

## 調査の概要

伊達市有珠地区所在のカムイタプコブ下遺跡は、平成22年度に添田雄二氏（北海道博物館学芸員）が実施した地質学調査の際に発見された遺跡です。平成23年度から、近世アイヌ文化期の人々の暮らしと自然環境の変化との関係を明らかにするための学術調査が行われており、平成27年度からは科学研究費助成事業「小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族へ与えた影響」（基盤研究(B)研究者：添田）により平成30年までの本格的な調査を計画しています。

これまでの調査によって、チセ（アイヌ民族の住居）や畑跡、貝塚、墓址などが発見されています。今年度の調査では新たに貝塚と畑跡が検出されました。

貝塚は、1640年に発生した駒ヶ岳噴火津波によって運ばれた海砂（「津波堆積物」）の下に位置することから、1640年より古い時期のものであることがわかりました。以前の調査で見つかったチセとほぼ同じ時期と考えられる貝塚が発見されたことで、当時の集落の様子をより具体的に知る手がかりになると期待されます。

畑跡は、1640年の津波堆積物と1663年に降下した有珠b火山灰に挟まれた層から検出されました。今年度の調査では、17世紀中頃のアイヌ民族が栽培していた作物が何かを明らかにするた

め、実験的な発掘調査を試みました。その結果、作物痕跡の可能性が高いと考えられる円形の跡が畝の中央部で見つかり、その中の土壌からデンプン粒が検出されました。今後はより多くの作物痕跡を検出するとともに、デンプン粒の分析によって作物の種類を同定していく予定です。

今年度の調査成果は『北海道博物館研究紀要』第2号に掲載される予定です。



畑跡の調査風景

この遺跡についてのお問い合わせや伊達市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

### 伊達市教育委員会生涯学習課文化財係（カムイタプコブ下遺跡について）

電話：0142-23-3331

### 史跡北黄金貝塚公園（伊達市内の遺跡について）

住所：伊達市北黄金町75

電話：0142-24-2122

<http://www.city.date.hokkaido.jp/funkawan/detail/00003312.html>

開館時間 9:00～17:00（4月1日～11月30日まで期間内無休）



## 厚真町教育委員会

調査理由：開発事業（ダム）

調査地：勇払郡厚真町字幌内372-1

調査期間：平成28年8月19日から10月31日

調査面積：138㎡

## 調査の概要

厚真町では厚幌ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘事業で平成14年から調査が開始され今年度で15年目となります。上幌内1遺跡は平成26年度に主要部を調査しましたが、厚真川上流域に供給する電柱部分（3ヶ所）は付け替えが調査期間前には出来ず、平成28年度に改めて調査することになりました。

上流部のA地点からは、擦文文化期の土器集中が2ヶ所発見されましたが、双方の土器は接合し、中間部が電柱設置時に攪乱されていることが分かりました。樽前c火山灰より下層のV層からは数点の礫が出土したのみで遺構は検出されませんでした。

中間部のB地点からは、縄文時代のTピットが1基発見されました。樽前c火山灰より上層（Ⅲ層）は畑の造成によって攪乱・削平され、遺構・遺物は検出できませんでした。

下流部のC地点からは、杭列跡が1条と、獣骨集中が検出されました。平成26年度に調査した中世アイヌ文化期のⅢH-01の東に当たり、周辺



A地点擦文土器出土状況（中央の穴は電柱を撤去した跡）

からは同じような獣骨集中が見つかったのでその一部と思われます。獣骨集中からは主に、焼けていないシカの上顎・下顎骨・四肢骨が発見されています。

この獣骨集中の東側には南北方向に長さ約3.6mの杭列跡があり、覆土の観察から2時期以上にわたって使われていたことが考えられます。

杭列跡の東側には獣骨集中は見られないことから、「境界」的な意味合いがあった可能性があります。

報告書刊行は平成29年度以降に予定していません。



杭列跡完掘状況

(上の白線の囲みは平成26年に調査した獣骨集中の範囲)

この遺跡についてのお問い合わせや厚真町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

厚真町教育委員会 生涯学習課社会教育グループ 軽舞遺跡調査整理事務所（旧軽舞小学校）

電話：0145-28-2733

メールアドレス：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

## 厚真町教育委員会

調査理由：開発事業（水道）

調査地：勇払郡厚真町字富里53-1ほか

調査期間：平成28年6月15日から8月26日

調査面積：168㎡

## 調査の概要

厚真町は北海道胆振管内東部に位置しています。町内の遺跡は大きく上厚真地区を中心とした南部、厚真市街地から富里・幌内地区にかけての中部、平成14年から厚幌ダム建設に伴う発掘調査が行われている幌内地区を中心とした北部に分布しています。富里1遺跡は中部の厚真川右岸、標高約45～50mの河岸段丘に立地しています。

発掘調査は平成27年度に道道上幌内早来停車場線の北側を行い、今年度は道路を挟んだ南側で、幅4m、L字状に設定された長さの総延長45mが調査範囲となりました。

遺跡の時期は駒ヶ岳c2火山灰（1694年）と樽前b火山灰（1667年）の間にあたるⅡ層は近世前葉アイヌ文化期、樽前b火山灰下層のⅢ層黒色腐植土から縄文時代晩期中葉、後期初頭、中期後葉、早期後葉と多時期にわたり、遺物総数3,498点が出土しています。

Ⅱ層では平地式住居跡を1軒検出しています。規模は4.2m以上（一部調査区外）、短軸5.6mで9本の柱穴を伴っており、中央には長方形の炉跡1カ所を検出しており、厚さ約20cmの灰層が残存していました。床面からは鈎状鉄製品や

鎌、火打石片、板状銅製品等が出土しています。Ⅲ層中世アイヌ文化期では平地式住居跡1軒、焼土1カ所、灰集中4カ所等が検出されています。平地式住居跡からは炉跡2カ所を検出し、鏝などが出土しています。焼土からはシカ、魚の焼骨片が出土しています。その他、Ⅲ層では樽前c火山灰直上から縄文時代晩期の焼土2カ所を検出し、幣舞式並行の土器、搬入系で入組文の見られる大洞C2式が出土しています。Ⅴ層では樽前c火山灰直下のⅤa層から焼骨片集中6カ所、焼土18カ所、土坑4基等を検出し、焼土には投棄焼土や攪拌されているものがあり、土坑からは幣舞式並行の土器や大型の剥片石器、シカの焼骨片等が出土しています。また、土坑には覆土中位に焼骨片が堆積し、開口部よりも土坑下部が大きく広がるフラスコ状を呈するものがあります。近隣では苫小牧市美沢東6遺跡で樽前c火山灰が坑底面付近まで堆積する縄文時代晩期に相当するフラスコ状の土坑の検出例があり、本遺跡の土坑も掘り上げ土との関係から、樽前c火山灰降下直前に使用されたと考えられます。

発掘調査は今年度で終了し、調査報告書は平成29年度に刊行の予定です。



調査区全景



近世前葉アイヌ文化期平地式住居跡

この遺跡についてのお問い合わせや厚真町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

厚真町教育委員会 生涯学習課社会教育グループ 軽舞遺跡調査整理事務所（旧軽舞小学校）

電話：0145-28-2733

メールアドレス：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

## 厚真町教育委員会

調査理由：開発事業（ダム）

調査地：勇払郡厚真町字幌内92-1・2、93-1

調査期間：平成28年5月11日から10月31日

調査面積：5,094㎡

## 調査の概要

ショロマ1遺跡は現在建設中の厚幌ダム湛水区域の幌内地区、厚真川とショロマ川の合流地点に面した河岸段丘上に位置しています。本遺跡は平成25年度から調査を行い、今年度すべての調査が終了しました。過年度は主に厚真川に面した低位段丘面（標高約70m）、今年度はショロマ川に面した低位段丘面と一段高い高位段丘面（標高約80m）の調査を行いました。

ダム地域内には樽前山を給源とする火山灰が明瞭に堆積しているため、遺物包含層の黒色腐植土は樽前c火山灰（約2500年前に降下）以降のⅢ層、以前のⅤ層を区分して調査することができます。

今年度調査した範囲のⅢ層は低位段丘面の大部分が畑の耕作で削平されていましたが、高位段丘面では良好に残っていました。この高位段丘面では東側縁辺で中世アイヌ文化期の遺構・遺物が見つかり、被熱礫集中3カ所、焼き火跡2カ所などが近接して検出されました。

Ⅴ層ではどちらの段丘面とも遺構が確認でき、主に検出されたのはTピット51基で、その他竪穴住居跡1軒、焼き火跡5カ所、土坑3基があり

ます。また遺物の集中箇所も見られ、土器集中が14カ所確認されています。土器は縄文時代中期後半の柏木川式、後期初頭の余市式が主で、余市式は多段の貼付帯と羽状縄文が特徴の古手のものが多く出土しています。また中期後半の大安在B式等、道南系の土器も確認されています。剥片石器は石鏃や石槍116点、つまみ付きナイフや削器61点等出土していますが、使用されている石材はほぼ黒曜石で、それ以外の石材（頁岩等）は4%のみです。礫石器は主にたたき石、石斧が出土しています。石斧や石斧片は、眺望が良好な高位段丘面の東側縁辺付近に比較的多いという特徴が見られます。

ショロマ1遺跡は4年間で22,735㎡の調査を行い、遺跡全体の調査を終えることにより縄文時代の空間利用の実態が明らかとなってきました。今年度の調査区を含む北側の低位段丘面では、Tピットが東から西にかけて弧状に分布し、土坑墓や住居跡はほとんど作られていないことが確認されました。このことから、当時の人々はこの土地を、北側は狩猟等を行う生業の場、川の合流点に近い南側は土坑墓を含む生活の場として利用していたと考えられます。

報告書は平成29年以降に刊行予定です。



中世アイヌ文化期 被熱礫集中検出



余市式土器の集中出土状態

この遺跡についてのお問い合わせや厚真町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

厚真町教育委員会 生涯学習課社会教育グループ 軽舞遺跡調査整理事務所（旧軽舞小学校）

電話：0145-28-2733

メールアドレス：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

## 厚真町教育委員会

[一覧へ戻る](#)

調査理由：開発事業（ダム）

調査地：勇払郡厚真町字幌内374-3

調査期間：平成28年8月18日から10月31日

調査面積：50㎡

## 調査の概要

厚真町は北海道胆振総合振興局管内の胆振東部に位置し、埋蔵文化財包蔵地として登録されている遺跡数は平成28年1月現在で138ヶ所になります。厚真町では厚幌ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘事業で平成14年から調査が開始され今年度で15年目となり、湛水区域内全ての発掘調査が終了しました。

ダム建設に伴う遺跡（以下：厚幌ダム遺跡群）は厚真川河口から約30km上流の厚幌ダム湛水区域内である幌内地区に所在しています。厚幌ダム遺跡群の中で上幌内2遺跡は、市街地から約18kmの厚真川右岸、標高67～77mの河岸段丘上に立地しています。遺跡は東側山地を開析した扇状地形によって西または南西方向に傾斜する地形になっています。北側には小沢を挟んで上幌内1遺跡が、北西側には厚真川の対岸にショロマ1遺跡が立地しています。遺跡の東側は山地で急傾斜となりますが、西側は厚真川とショロマ川の合流点が一望でき日照条件も良かったと考えられます。

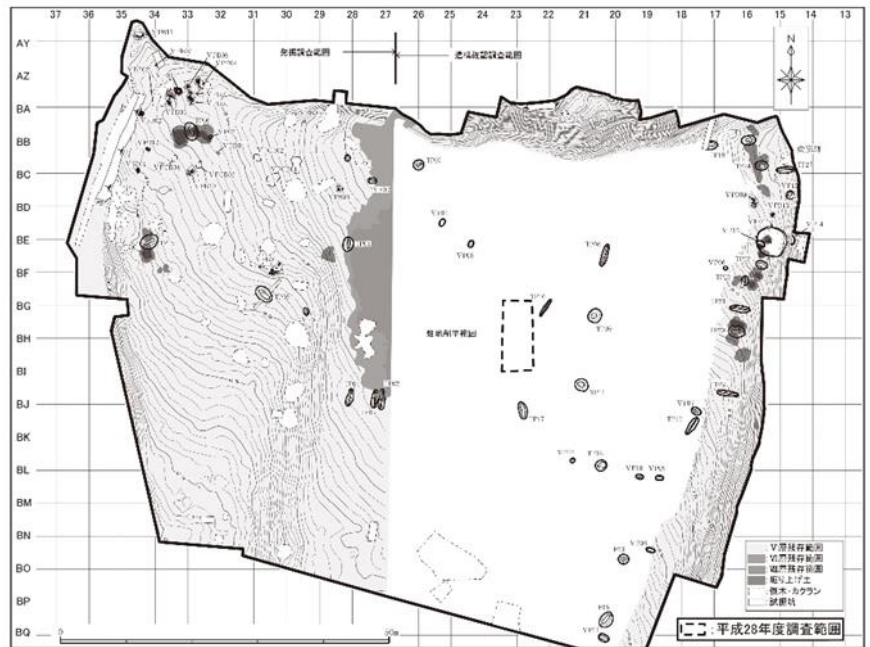
今回調査した上幌内2遺跡は平成26年度に大部分を終了しています。調査区は大きく西側の標高約67～70mの発掘調査区、約70mより東側の遺構確認調査区に分けています。平成26年度の発掘調査区では中世アイヌ墓5基をはじめ、擦文、続縄文、縄文時代の遺構、遺物が見つかっていま

す。遺構確認調査区では耕作によって削平されていた部分は縄文時代のシカの落とし穴のみでしたが、包含層が残っている範囲では、擦文～アイヌ文化期の遺構、遺物も見つかっています。

平成28年度の調査は、この東側の遺構確認調査区に残された電柱と支柱、控杭の撤去に伴って行ったものです。調査範囲は50㎡で電柱等を抜き取り、電線を撤去したのち重機によって表土及び耕作土を除去しました。平成26年度の調査では配列は見られないものの、周囲にTピットが検出されていたので、ジョレンを用いて精査を行い、遺構確認調査をしました。

今回の調査では遺構及び遺物は検出されず、全ての調査が終了しました。

報告書刊行は平成29年度に予定しています。



平成28年度上幌内2遺跡調査地点（破線部）及び縄文時代遺構配置図

この遺跡についてのお問い合わせや厚真町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

厚真町教育委員会 生涯学習課社会教育グループ 軽舞遺跡調査整理事務所（旧軽舞小学校）

電話：0145-28-2733

メールアドレス：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

## 厚真町教育委員会

調査理由：詳細分布

調査地：勇払郡厚真町字豊沢481-1

調査期間：平成28年4月18日

調査面積：4㎡

## 調査の概要

本遺跡は、厚真町市街地より南へ約3.4km、厚真町百年記念公園の敷地内に所在し、厚真川の支流当麻内川へ注ぎ込む平井の沢川左岸、標高23mの海成層を基盤とする段丘上に立地しています。遺跡周辺の環境として南側に流路幅が1～2mの平井の沢川が隣接し、段丘面との比高差は約6mあります。狭い沢状地形なので季節風の影響も受けず、南側が開析していることから段丘縁辺部は日照条件が良い立地環境となっています。

詳細分布調査に至った経緯は、遺跡が形成される立地環境であることと、本段丘上に現地表面で浅い窪地を確認したことから竪穴住居跡を伴う埋蔵文化財包蔵地の可能性地と考えました。この地区では1667年に降下した樽前b火山灰が厚く堆積しているためテストピットを掘削し、埋蔵文化財包蔵地の有無とその範囲、隣接地での開発計画との関係を確認するために実施しました。

調査は現地表面で確認した浅い窪地とその周辺、段丘縁辺部に1m×1mのテストピットを4ヵ所設定し、人力掘開しました。遺物包含層となる黒色土は樽前b火山灰(層厚70cm)の下に縄文時代晩期中葉(約2,500年前)に降下した樽前c火山灰(層厚10cm)を挟んで2層を確認しました。

調査の結果、浅い窪地は植林作業時の表土造成によるものと思われ、住居跡などの遺構は見つかりませんでした。3ヵ所のテストピットにおいて下層の黒色土から黒曜石細片2点と礫5点が出土しました。このことから、縄文時代の遺物包含地として豊沢9遺跡を新たに登載しました。

本遺跡の所在する平井の沢流域には約2.7km上流に縄文時代早期後葉、中期末葉の豊沢6遺跡や中期末葉の豊沢7遺跡、後期中葉の豊沢8遺跡があり、小規模な河川でありながらも全流域にわたって良好な環境地点を選択しつつ縄文時代の人々が活動していたことが判りました。



遺跡近景



遺物包含層堆積状態

この遺跡についてのお問い合わせや厚真町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

厚真町教育委員会 生涯学習課社会教育グループ 軽舞遺跡調査整理事務所 (旧軽舞小学校)

電話：0145-28-2733

メールアドレス：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

# しのめ むかわ町 東雲1遺跡 (登録番号 J-14-103)

## むかわ町教育委員会

[一覧へ戻る](#)

調査理由：詳細分布

調査地：むかわ町穂別461

調査期間：平成28年6月1日から10月12日

調査面積：16㎡

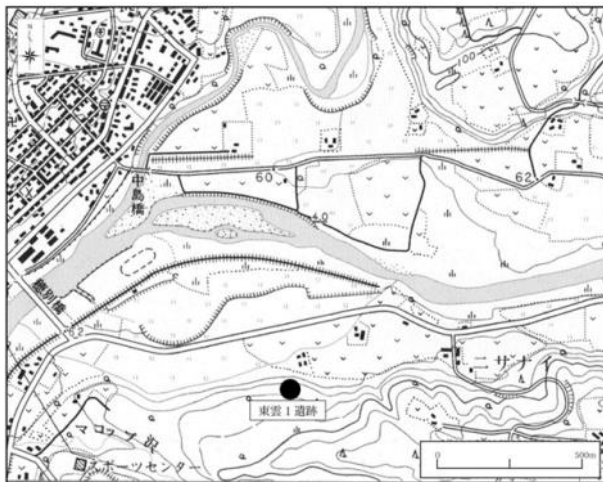
## 調査の概要

東雲1遺跡は穂別市街地から南東に1kmほど離れた、鶴川東岸の段丘上に位置しています。平成25年に新規発見し、現地表面に2基の竪穴住居跡と思われる窪みが残る遺跡として今日まで保護をしてきたところです。平成28年の調査では、竪穴の窪みとその周辺について試掘調査を行い、窪みが擦文文化期の竪穴住居跡であることがわかりました。竪穴住居跡からは擦文時代後期の土器片が出土し、このうち1号竪穴住居跡の床面から炉跡が検出されました。遺跡からは縄文時代の石冠や縄文中期の土器片なども出土しており、このことから本遺跡が擦文時代後期と縄文時代の複合遺跡であることが判明したところです。

今回の発掘調査では遺跡の周囲も踏査し、東雲1遺跡の周辺において竪穴住居跡と思われる

浅い窪みが残る場所も見つかりました。今回試掘した竪穴住居跡では、内部に流れ込んだ土と近世の火山灰によって大部分が埋没していたため、現地表面から竪穴の窪みを確認しただけでは遺跡に残る竪穴住居跡の総数を十分に確認できたとは言い難く、上記の他にも竪穴の窪みが残されている可能性がみえてきました。

東雲1遺跡の東には東雲チャシ跡が隣接しており、また、西に300mほど離れた同じ段丘上にはニサナイチャシ跡が所在しています。ニサナイチャシ跡は平成26年に実施した炭素年代測定調査の結果から13世紀頃のものと考えられるチャシ跡で、擦文文化期の集落跡である東雲1遺跡とチャシ跡の関連性が期待されるところです。東雲1遺跡の報告書は平成29年度に刊行予定です。



東雲1遺跡位置図

この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図NK-54-8-16（穂別）を使用した。



竪穴の窪みが残る調査区

この遺跡についてのお問い合わせやむかわ町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

## むかわ町教育委員会社会教育グループ

電話：0145-42-2487

メールアドレス：skyouiku@town.mukawa.lg.jp

## 様似町教育委員会

調査理由：詳細分布

調査地：様似郡様似町字冬島39番地

調査期間：平成28年8月23日から9月2日

調査面積：16㎡

## 調査の概要

冬島遺跡は、様似町市街地から北東側に6kmほど離れた冬島地区に位置しており、冬島川とポンサヌシベツ川に挟まれた海岸段丘上に立地しています。

本遺跡は昭和56年に町内郷土史研究会、様似高等学校郷土研究サークルによる学術調査がおこなわれ、石囲炉をともなう住居跡などの遺構が確認されています。遺物は続縄文文化期初頭のもものが主体的に出土しています。

今年度の出土遺構は土坑3基、杭跡6基、焼土1ヶ所が検出されました。土坑は、覆土から獣骨、土器、石器が出土しました。一部の杭跡は掘り込みが浅いものと深いものが隣り合わせに並んだ状態でした。

出土遺物は、土器、石器、骨角器、動物遺体、玉類が出土しました。土器は続縄文文化期が主体です。石器は、石鏃や石錐、スクレイパー類があります。動物遺体は、海獣骨や鹿骨を主体とする獣骨、サメの歯2点を含む魚骨、少量の貝類が出土しました。水洗選別からはコハク玉4点を確認しました。



調査区近景



出土遺物

この遺跡についてのお問い合わせや様似町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

### 様似町教育委員会 (冬島遺跡について)

電話：0146-36-2521

F A X：0146-36-4210

メールアドレス：samani-e@cello.ocn.ne.jp

### 様似町郷土館 (様似町内の遺跡について)

電話・F A X：0146-36-3335

開館時間：10：00～16：30

閉館日：月曜・祝日の翌日

## 様似町教育委員会

調査理由：詳細分布

調査地：様似郡様似町字幌満114-1

調査期間：平成28年6月10日から6月15日

調査面積：176㎡

## 調査の概要

本遺跡は、北海道日高管内様似町幌満地区に位置し、町指定史跡である様似山道沿いに所在しています。過去に町内の郷土史研究会により黒曜石製の石鏃などが表面採集されており、縄文時代以降の埋蔵文化財包蔵地と考えられます。また、遺跡上部には寛政11（1899）年に開削された様似山道の利用者の為に建てられた旅籠屋（明治6年～明治18年）の遺構が残存しており、礎石の一部などが確認できます。

出土遺構は母屋の礎石、石垣2か所、炉跡2基が確認されました。礎石の配置により4間×7間の間取りで旅籠屋が建てられていたと考えられます。炉跡は焼土の上に土が被せられて、そ

の上に石が置かれている状態で、炉跡1からは青銅製の飾り金具や徳利、炉跡2からは寛永通宝が出土しました。また、母屋の西側には過去の調査で便所跡とされていた楕円形の窪みがあり、これらについても調査をおこなった所、底部が隅丸方形であることが確認され、その内側に大型の石が並んで設置されていました。また、底部直上の覆土からは徳利片と碁子の一部が確認されました。

出土遺物は徳利片、土瓶片、磁器片、寛永通宝、金属製品などが出土しました。徳利はいわゆる焼酎徳利と呼ばれるもので過去の調査での同様のものが出土しています。



調査区近景



礎石検出状況

この遺跡についてのお問い合わせや様似町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

### 様似町教育委員会 (冬島遺跡について)

電話：0146-36-2521

F A X：0146-36-4210

メールアドレス：samani-e@cello.ocn.ne.jp

### 様似町郷土館 (様似町内の遺跡について)

電話・F A X：0146-36-3335

開館時間：10：00～16：30

閉館日：月曜・祝日の翌日



平成29年3月 発行

市町村における発掘調査の概要 平成28年度(2016年度)

編集・発行

北海道教育庁 生涯学習推進局 文化財・博物館課

〒060-8544 北海道札幌市中央区北3条西7丁目

TEL 011-231-4111 内線35-606